

83会場で春の座談会 1246人が出席

組合員の声を J A 運営に反映

主な意見・要望は 報告号に掲載



活発に意見が挙がった上町(南地区)の座談会

J A はだのは6月18日、市内83会場で春の座談会を開いた。組合員の声を今後の J A 運営に反映させることが目的。出席した合計1246人から645件の意見や要望が寄せられた。

会場では、2017年度事業計画の他、農業機械対策、TAC(地域農業度事業報告)や2018年度のレンタルや鳥獣被害の担い手に出向く営農担



内田教育長(左)に教材を贈る山口組合長

食と農の大切さ伝える

市内の小学5年生に教材贈る

J A はだのは、食農教育市役所で教材の贈呈式を開き、山口政雄組合長が市内の小学5年生に毎年贈り、食や農の大切さを伝えていく。今年は各校に合計約1600部を配

授事業の一環で、2009年にスタートした。教材のテキストは、写真やイラストを使って農家の取り組みなどを紹介。補助教材のDVDもセットにし、児童がより効果的に学べるよう工夫している。内田教育長は「教材を有効活用し、児童の農業への理解を深めていきたい」と話した。



古谷さん(右)から野菜苗について説明を受ける参加者

学習会で理解深め

新しい仲間 農業ファンに

北支所運営委員会は14日、新たに加わった組合員やその家族を対象に、農業学習会を開いた。地

当者)の活動などが話題の中心となった。組合員からは「新規就農者への支援をもっと強化してほしい」「J A の自己改革に対して准組

27の両日の組合員訪問日

域の農家を訪問し、圃場(ほじょう)の見学や農家との交流を通じて、地域農業への理解を深めてもらうことが目的。施設と露地で野菜を生産する古谷昇さんの協力の下、参加者9人が栽培方法などを学んだ。参加者は、トマトやナスなど15品目以上の野菜苗を育てているハウスや、ブロッコリーなどを作付けする畑を見学。栽培品目や管理方法などについて説明を受けた後

接近! おじいちゃん

農業やボランティアに注力



南矢名の 高橋 文雄さん(69)

現在、水田20アールで米作りを助けている他、友人と借りた20アールの畑でサトイモやショウガ、タマネギなどを栽培。農業をほぼ使用せずに行っていることが、この野の知識を習得した。

地域貢献にも力を入れている高橋さん。秦野市交通安全協会の活動に協力する他、青少年相談員などとしても活躍している。生産組合長を務めるのは初めての経験。まだまだ分からないことばかりだが、これから自分ができることをしっかりとやっていきたい」と意気込む。

日曜大工が趣味で、孫が使う椅子などを作ることが良い息抜きになっているという高橋さん。「孫の成長を見守ることが楽しみなので、これからも健康を第一に過ごしていきたい」と笑顔で語った。



発行所 秦野市 農業協同組合 (神奈川県) 〒257-0015 秦野市平沢477 電話 0463(81)7711(代) 編集兼発行者 宮永 均

今月の特集 4~5面

タケノコの出荷真つ盛り

市内各地でタケノコの出荷シーズンを迎え、じばさんずには連日、新鮮な秦野産がずらりと並ぶ。地元農家は加工品作りにも励んでいる。

メール情報配信サービス QRコードで登録を

J A はだのは、携帯電話・パソコンなどのメール2回のメールマガジンを利用して情報配信サービスと、営業・じばさんず



セレモニーホールなどのみ取り、簡単な手続きを進めるだけで登録できます。上記のQRコードをスクリーンで読む

生産緑地に体験型農園



利用者に播種の方法を教える和田さん(右)

市内外から1万人来場 春まつりにぎわう 秦野市園芸協会は21、22の両日、本所敷地内で「園芸協会春まつり」を開いた。市内外から合計約1万人が来場し、会場は連日にぎわいを見せた。

同協会を構成する J A はだの業種別部会の部会員からは、野菜苗や花苗などを販売した他、来場者からの野菜作りなどに関する質問に丁寧に応えた。花き部会カネーシヨ部は、カーネーションを無料配布し、来場者に「母の日には秦野の花を贈って」と呼び掛け

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

八重桜の収穫ピーク

食用八重桜の出荷量が全国トップシェアを誇る秦野市で4月上旬、地元農家らによる桜の摘み取りがピークを迎えた。収穫した桜は農家グループらが集荷し、同市の特産品である桜の塩漬けなどに加工する。



本町支所が新装オープン

5月7日から記念イベント

本町支所が5月7日、新装オープンします。新店舗は、鉄骨2階建てで、面積は約1100平方メートル。全自動金庫も用意しています。5月7日(月)~18日(金)のオープン記念キャンペーンでは、利用者先着1000人を対象に、豪華賞品が当たるスピー



良質な野菜苗などが並んだ会場

地域の特産を絶やすまい

「桜の塩漬け」加工急ピッチ



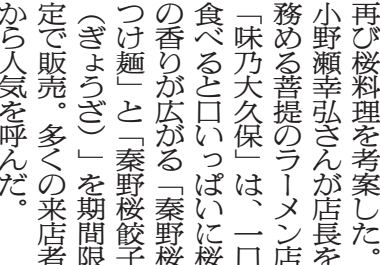
八重桜の花を選別するメンバー

千村の農家グループから、例年より一週間のほど早く作業がスタート。3日間、150kg以上の桜の塩漬けは、花びらの加工作業に励んだ。今は桜の開花が早かった上を加工した。

メンバーの岩佐スエ子さんは「秦野の伝統を絶やさないように仲間と共に続けていく」と話した。桜の塩漬けは、6月からじばさんすや特産センター・秦野・波沢の両店で販売する予定だ。

市内の若手飲食店主ら、摘み手を増やそうと、特産品である「桜の塩漬け」を使った料理を各店舗に提供している。桜の出荷量は全国シェア7、8割を誇っているが、摘み手となる農家の数が減っている。同グループが八重桜に着眼したのは、農家から桜の摘み手が減少している状況を聞いたことがきっかけ。同市の食用八重桜の出荷量は全国シェア7、8割を誇っているが、摘み手となる農家の数が減っている。同グループが八重桜に着眼したのは、農家から桜の摘み手が減少している状況を聞いたことがきっかけ。同市の食用八重桜の出荷量は全国シェア7、8割を誇っているが、摘み手となる農家の数が減っている。

八重桜の伝統守りたい 飲食店主が料理考案



「秦野桜つけ麺」と「秦野桜餃子」を手にする小野瀬さん

高齡化や後継者不足が年々深刻化している。そこで、昨年4月には地元農家の指導の下、八重桜の摘み取りから加工までを実践。完成した桜の塩漬けを使った料理を期間限定で提供した。今年は、同市が取り組む「ハダ恋桜キャンペーン」に協力し、各店舗が再び桜料理を考案した。小野瀬幸弘さんが店長を務める菩提のラーメン店「味乃大久保」は、一口食べると口いっぱいに桜の香りが広がる「秦野桜つけ麺」と「秦野桜餃子(きょうざ)」を期間限定で販売。多くの来店者から人気を呼んだ。

秦野市農業後継者クラブ「秦友会」は4日、本所農業団地センターで第54回通常総会を開いた。会員13人の他、市農産課や市農業経営士会、県農業技術センターなどの関係者が出席。上程した4議案を全会一致で可決した。

約40人の農家が出荷



朝取りのタケノコを出荷する小林さん

じばさんずにと並ぶ

毎年、約40人の農家が出荷しているタケノコ。新鮮なタケノコが並ぶ山菜コーナーは今年も連日、開店から多くの来店者でにぎわいを見せる。現在、店頭に並んでいるのは孟宗竹(もうそうちく)。肉厚で甘さがあり、煮物や揚げ物などさまざまな料理に利用されている。出荷者の一人、今泉の小林富子さんは「タケノコは特に鮮度が重要。時間がたつほど、あくが強くなってしまふので、新鮮なうちに調理して旬の味覚を味わってほしい」と話している。

農家グループが今年も水煮作り



タケノコの加工に励む農家

タケノコの水煮を手掛け、ケノコを収穫。皮をむいて米ぬかとともにゆでた後、クエン酸を加えて真空パックに詰めた。完成した水煮は、女性部員を対象にした料理教室で利用。さらに、業者を通じて「たけのこご飯」を作り、JAの農業まつりなどで販売していく予定だ。高橋由美子代表は「タケノコのおいしさを多くの人に伝えたい。若い人たちの加入も促していければ」と力を込める。

秦野産の魅力幅広く発信

春の訪れを感じさせてくれる食材、タケノコ。市内各地で収穫シーズンを迎え、じばさんずには連日、秦野産のタケノコが数多く並び、地元農家は加工品作りにも励み、タケノコ魅力を幅広く発信している。

旬の食材 総菜に重宝



旬のトンカツを手にする向原さん

じばさんずの加工品の「トンカツ」を出荷。購入者が所有する竹林で収穫したタケノコを、お弁当の薄切りの豚ロースを巻いて揚げたもの。タケノコは「旬のトンカツ」は、自コは厚さ1センチにカットし、しょうゆとみりんを味付けした。タケノコの風味としゃっきりとした食感が楽しめる一品だ。

収穫、出荷、加工に大忙し

向原さんは「これからタケノコのように収穫時期が限られてくるものを積極的に総菜にして、食卓に旬の味を届けていきたい」と意欲を燃やしている。

親子で収穫体験を満喫



親子でタケノコの収穫を満喫

堀川から家族で訪れた星明博さんは「農業や自然に触れられる貴重な体験なので毎年参加している。子どもと一緒に収穫の喜びを味わえて楽しい」と笑顔で話した。大津さんは「農業は消費者が農業を応援する」と話した。

JAはだの2018年度新採用職員9人は3月27、28の両日、秦野市内の農業経営士3人のもとで農業実習を行った。作業に励み、農業の重要性を学んだ。

農作業で農業の重要性学ぶ 新採用職員が実習



和田さん③からわき芽かきを教わる新採用職員

新採用職員の石井優奈さんは「学んだことを生かし、組合員の気持ちに寄り添いながら業務に励んでいきたい」と意欲を込めた。和田さんは「組合員の声をしっかりと聞き取り、要望に応えられる職員になってほしい」と期待を寄せる。

JAはだの2018年度新採用職員9人は3月27、28の両日、秦野市内の農業経営士3人のもとで農業実習を行った。作業に励み、農業の重要性を学んだ。

柳川の一相田三三男さん(61)

JAはだの商品「うでじー」や「丹沢はだの梨サイダー」などのパッケージをデザインする相田三三男さん。幼い頃から漫画家に憧れ、高校卒業後はデザインの専門学校に進学。20歳の時に横浜

J A商品のデザイン考案

「秦野のおいでん」の果汁で作ったサイダーです。秦野産のイチゴや梨などを使ったサイダーを考案。大手企業の広告のアーティストレクターなどを務めた。その後、秦野で独立し、JAが

公衆していた「うでじー」のパッケージに応募して採用された。以来、はだのじばさんずオリジナル商品のパッケージなどを多数デザインしている。

——今まで手掛けた作品は？

ファッションショーの広告や大学生協のカタログなど、幅広くデザインの仕事をしてきました。JAの商品パッケージの背景によく登場する丹沢の山並みは、毎回市内のさまざまな場所スケッチをして、デザインに使用しています。

——心掛けています。子供向けの絵本を描いてみたい。

いきいき元気に長生きを 100歳以上の組合員祝う

JAはだの、長寿の祝い年を迎える組合員に記念品を贈る「いきいきライフ支援事業」に取り組んでいる。

13日には、山口政雄組合長が100歳以上の組合員宅4軒を訪問。本所に住む遠藤喜美江さん(101歳)に、秦野産のバラのアレンジメント

長寿者に記念品贈呈

おめでとうございます。永くお元気で過ごしてください。

100歳以上

▽鶴巻地区 宇山さくら(鶴巻町)

▽西地区 安田院サダ子(末広町) 古谷志子(菅屋)

▽南地区 高橋睦子(尾尻)

▽西地区 高橋弘(並木町)

▽上地区 清水タマリ(菅浦)

※自己申告ですので、該当の方は各支所・支店までご連絡ください。

活動方針を述べる高橋部長

同部会の今年度の活動方針を述べた。

総会前には司法書士の岡山司氏が「どうする？あなたの資産継承」と題して講演。財産管理会社への資産移転や成年後見制度のメリットなどを挙げた上で、家族や親族に財産管理を託す「家族信託」の活用を呼び掛けた。

剪定チッパーのレンタル始まる

導入コスト不要、省力化

営農経済改革



J Aはだのは、農業機械を農家に貸し出す農業機械利用事業を新たに立ち上げた。J Aの営農経済改革の一環で、農家の農業機械導入コストをなくすとともに、作業の省力化につなげるのが狙い。4月から、剪定(せんてい)チップの貸し出しを始めた。

同事業は、座談会などで農家から寄せられた声を受けてスタート。農業機械を貸し出すことで、農家は保管場所の確保や整備などが不要になる。導入した剪定チッパーは、枝葉やわらを細かく粉碎するもの。料金も安く参加者。

剪定チッパーの操作説明を聞く参加者

最長2日、防護用具付き

同事業は、座談会などで農家から寄せられた声を受けてスタート。農業機械を貸し出すことで、農家は保管場所の確保や整備などが不要になる。導入した剪定チッパーは、枝葉やわらを細かく粉碎するもの。料金も安く参加者。

長2日間借りることができる。利用者の安全面も考慮し、防護用具も貸し出す。

3月27日には、本所で同事業の利用に関する講習会を開いた。J A農業センターの職員と農機メーカーの職員が、参加者91人に同事業の内容の他、操作の手順や注意点を説明した。

機械音が大きいため早朝の使用は避けることなど、近隣住民への配慮も呼び掛けた。

本所で施設野菜共進会

じばさんずで即売会も

県施設野菜組合連合会は5日、J Aはだの本所で「第47回神奈川県施設野菜共進会」を開いた。県内の農家が出品したトマトとキュウリを審査。出品されたのは、トマト178点、キュウリ67点の合計145点。審査員を



市政に農家の声を

園芸協会が市議会議員と懇談

秦野市園芸協会は16日、本所で秦野市議会議員との懇談会を開いた。農家の声を市政に反映させることが目的。同協会の会員と環境産業常任委員を務める市議会議員の他、J Aや市、はだの都市農業支援センターの職員合計43人が出席した。

意見交換では、カルチャーパーク内のバラ園の管理や農業に対する市の補助金、鳥獣被害対策などについて話合った。

同協会の会員は「秦野の鉢花を公共施設で使ってもらいたい」「農業用水道水に関する制度を農家の実情に合ったものにしてほしい」など、さまざまな要望を市議会議員に伝え、農業への一層の支援を求めた。



営農技術 ヒント・ポイント

協力 農業技術センター 0463-58-0333

普及指導部

- 果樹花き課
- 果樹花き課
- 野菜加工課
- 野菜加工課

経営

農作業事故に注意しましょう

全国では31万件(平成28年度)の農作業死亡

事故が発生しており、農業機械の操作に伴うものが約7割を占めています。基本的な安全操作・手順を守り、事故を未然に防ぎましょう。

▼乗用型トラクター

重大な事故の多くは、転倒・転落によるものです。①安全キャブや安全フレームのあるトラクターを使用し、ヘルメットを着用し、シートベルトの着用を徹底する(可倒式の安全フレームは、必ず立てて作業する)。

②作業が終わったら、道路へ出る前に必ずブレーキペダルの連結を行う。

▼刈り払い機(草刈り機)

キックバックによる負傷事故が多く、チップが欠けて目に飛び込む事故も起きます。①防護カバーを必ず装着する②チップが欠けたチップ間では使用しない③短時間であってもゴーグルなどの保護具を装着する④のり面・傾斜面などの不安定な場所では、常に安定した姿勢を保ち、小段を設けるなどの環境整備を行う。

▼耕うん機(歩行型トラクター)

耕うん機による事故の多くはバック時に挟まれ

J Aグリーンはだの

の来店者でにぎわいを見せた。

お買い合わせはJ Aグリーンはだのまで。817-719

J Aグリーンはだの

の来店者でにぎわいを見せた。

お買い合わせはJ Aグリーンはだのまで。817-719

第47回神奈川県施設野菜共進会が5日、J Aはだの本所で開かれた。審査の結果は次の通り。

◎トマトの部▽優秀賞Ⅱ高橋庸郎(尾尻)▽優良賞Ⅱ小島晴夫(上大槻)▽高橋誠一(下大槻)

◎キュウリの部▽優秀賞Ⅱ高橋庸郎(尾尻)▽優良賞Ⅱ小島晴夫(上大槻)▽高橋誠一(下大槻)

◎トマトの部▽入選Ⅱ今井新一(室町)高橋庸郎(尾尻)伊奈清(下大槻)

第47回神奈川県施設野菜共進会が5日、J Aはだの本所で開かれた。審査の結果は次の通り。

◎トマトの部▽優秀賞Ⅱ高橋庸郎(尾尻)▽優良賞Ⅱ小島晴夫(上大槻)▽高橋誠一(下大槻)

◎キュウリの部▽優秀賞Ⅱ高橋庸郎(尾尻)▽優良賞Ⅱ小島晴夫(上大槻)▽高橋誠一(下大槻)

◎トマトの部▽入選Ⅱ今井新一(室町)高橋庸郎(尾尻)伊奈清(下大槻)

文芸の窓

《俳句》(酒井 敏光 選)

親の丈あつという間や松葉独活 柳川みち子(栄町)

バスの人ゆくも帰るも臍かな 脇かな

山焼いて窪地の壕の蒼鷹 森高 由子(渋沢)

四月馬鹿だまされやすき顔洗う 高島美和子(名古屋)

晴ればれと頑な子で卒園す 吉田 清美(渋沢)

生涯を契らず生きてよもぎ摘む 菊池としえ(菩提)

若草や暴発できぬ一人っ子 志賀 明子(千村)

満開の花に誘われまわり道 芦川 松江(八沢)

山風の野面の笛や春まつ 石原 松枝(渋沢)

新緑の風に反身の仁王さま 酒井 紗恵(桜町)

青々の雨後は尋るさくらの実 柴崎 和子(渋沢)

古都をゆく路面電車や花の昼 高橋 順子(大森町 選者)

橋上の人端々し桜かな

《短歌》(久保寺 富男 選)

春立つや聞く雨だれの首たのし 祭太鼓のリズムにも似て

評 「や」というのは俳句では切字といわれるもので、その後のことについての詠嘆を示す。短歌ではあまり使用しない。詠嘆句的になつてしまふからだ。この作品も上の句で完結してしまい、下の句は蛇足になつてしまふ。玉ねぎは青々と芽を出し春風にゆるる

今井 かめ(羽根)

評 上の句と下の句を逆にした方が味が出る。である。

八重桜咲くころ父母のしのばれる テレビのなかに花をつみし日 細田 富士(千村)

万博に並びし思い出みかえる リニューアルオープンのスーパの混み 八木 実(鶴巻北)

荒廃の農地解消消ホランテア 十七年間つとめ引退 伊東 久(渋沢)

花びらをのせてなぐる細水 還るなきものはなべて麗し 選者

今月の理事会

4月25日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽2017年度(平成29年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表及び事業報告並びに部門別損益計算書の承認について

▽苦情等処理対応要領の一部変更について

▽第55回通常総会表彰・感謝状贈呈者の決定について

▽貸金庫利用規程の廃止について

▽2018年度借入金金の最高限度額の変更にについて

▽信用事業手数料にかかる取扱目の新設について

▽延滞債権等の譲渡について

▽(株)協同コンサルトは

2018年度の新採用職員 よろしくおられます

柏木 郁美 (生活福祉課)

原田 優魅 (葬祭課)

遠藤 奏 (信用課)

河田 直磨 (本町支所)

山本 壮矢 (大根支所)

石井 優奈 (鶴巻支店)

伊藤 美聡 (北支所)

柏木 優希 (南支所)

遠藤 功大 (西支所)

人事教育係長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

組織教育課 課長兼改革推進担当課 (総務課) 長 小林毅 (総務課) 教育広報係長 (企画課) 長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

ふわふわ!! がんもどき

東支部 合田久美子

■材料(4人分)■

木綿豆腐1丁、ナガイモ20g、ニンジン30g、ゴボウ30g、ひじき30g、A(酒大さじ1、砂糖大さじ1、しょうゆ大さじ1)、小麦粉適量

<作り方>

①豆腐は水切りし、ナガイモはすりつぶしておく。

②ニンジンとゴボウを好みの大きさに細かく切り、ひじきと一緒にAを入れて煮る。

③豆腐をすり鉢でつぶし、ナガイモを加えて滑らかになるまですりつぶす。

④③に②を加えて混ぜ合わせ、5g大に丸める。薄く小麦粉をまぶし、170度の油で揚げます。

<ひとことアドバイス>

煮付けもお勧めです。レンコンやキノコ、黒ゴマ、紅しょうが、青ネギなどお好みで具材を変えてもおいしいです。

秦野の農家ご飯

■材料(4人分)■

木綿豆腐1丁、ナガイモ20g、ニンジン30g、ゴボウ30g、ひじき30g、A(酒大さじ1、砂糖大さじ1、しょうゆ大さじ1)、小麦粉適量

<作り方>

①豆腐は水切りし、ナガイモはすりつぶしておく。

②ニンジンとゴボウを好みの大きさに細かく切り、ひじきと一緒にAを入れて煮る。

③豆腐をすり鉢でつぶし、ナガイモを加えて滑らかになるまですりつぶす。

④③に②を加えて混ぜ合わせ、5g大に丸める。薄く小麦粉をまぶし、170度の油で揚げます。

<ひとことアドバイス>

煮付けもお勧めです。レンコンやキノコ、黒ゴマ、紅しょうが、青ネギなどお好みで具材を変えてもおいしいです。

2018年度の新採用職員 よろしくおられます

柏木 郁美 (生活福祉課)

原田 優魅 (葬祭課)

遠藤 奏 (信用課)

河田 直磨 (本町支所)

山本 壮矢 (大根支所)

石井 優奈 (鶴巻支店)

伊藤 美聡 (北支所)

柏木 優希 (南支所)

遠藤 功大 (西支所)

人事教育係長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

組織教育課 課長兼改革推進担当課 (総務課) 長 小林毅 (総務課) 教育広報係長 (企画課) 長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

2018年度の新採用職員 よろしくおられます

柏木 郁美 (生活福祉課)

原田 優魅 (葬祭課)

遠藤 奏 (信用課)

河田 直磨 (本町支所)

山本 壮矢 (大根支所)

石井 優奈 (鶴巻支店)

伊藤 美聡 (北支所)

柏木 優希 (南支所)

遠藤 功大 (西支所)

人事教育係長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

組織教育課 課長兼改革推進担当課 (総務課) 長 小林毅 (総務課) 教育広報係長 (企画課) 長 佐藤 充 (総務課) 新倉智恵子 (企画課)

